

令和6年度第2回山口南警察署協議会会議録

開催日時		令和6年10月22日（火） 午後2時00分から午後4時00分までの間
開催場所		山口市小郡下郷3848番地1 山口南警察署4階 講堂
出席者	委員	原田委員、西村委員、上野委員、伊藤委員、仙石委員、 宇佐川委員、福江委員、勝股委員 計8名
	警察署	署長、副署長、会計課長、警務課長、留置管理課長、 生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長 計10名
議題		1 業務説明 2 諮問事項 (1) 少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進 (2) 阿知須交番の開所に向けた取組
1 会長挨拶 第2回警察署協議会を開催するにあたり、会を代表してご挨拶申し上げます。 季節は移り、暦の上では霜の降る季節を迎えるが、今年は何と言っても暑い日が続き、「過去最高を記録」という言葉をよく耳にする夏となった。警察署の皆様は、いかなる気象条件の中でも、昼夜を問わず職務に精励しておられるところであり、そのご苦勞に対して感謝を申し上げます。 今回の諮問事項は、一つが「少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進」、もう一つが「阿知須交番の開所に向けた取組」の二本立てとなる。少年を取り巻く問題では、情報化社会において様々な誘惑から子供を守り、助けを求める子供に手を差し伸べるのは、私たち大人の責務だと考える。また、来年4月から運用が開始される予定の阿知須交番には、住民ニーズに応えられる地域の安全センターとしての役割を担ってほしいと願っている。 委員の皆様には積極的な意見交換や提言をしていただき、今後の警察署の運営に役立てたいと考えているので、よろしくお願いします。 2 署長挨拶 (省略)		

3 業務説明

令和6年1月から9月の業務推進状況について以下の項目に沿って説明した。

- (1) 警務課関係
警察安全相談の受理状況
- (2) 生活安全課関係
ア 犯罪抑止
イ 少年非行
- (3) 地域課関係
ア 110番受理状況
イ 地域安全活動
- (4) 刑事課関係
ア 刑法犯の認知・検挙状況
イ うそ電話詐欺の認知状況
- (5) 交通課関係
交通事故の発生状況

4 諮問事項

- (1) 少年が加害者にも被害者にもならないための対策の推進

ア 概要説明

生活安全課長が、以下の項目に沿って説明した。

- 少年を取り巻く情勢
 - ・ 刑法犯少年、特別法犯少年の検挙・補導状況
 - ・ 薬物(大麻)の検挙状況
 - ・ 不良行為の補導状況
 - ・ 被害の状況
 - ・ ネットトラブル状況
- 少年の健全育成に携わる警察組織・職員とボランティア
 - ・ 警察本部、警察署、少年サポートセンター
 - ・ 警察官、少年育成官、少年安全サポーター
 - ・ 少年相談員、サイバー防犯ボランティア
- 少年が加害者にも被害者にもならないための対策
 - ・ 各種講習
 - ・ 少年セーフティリーダーズ活動
 - ・ 保護者への働きかけ
 - ・ 情報発信
 - ・ 時代の要請に応じた対応
 - ・ 少年相談窓口の周知

イ 協議

(委員)

刑法犯の認知件数は平成14年から減少していたが、この1、2年を見ると増加に転じている。人口減少が続く中で、何が増加の要因となっているのか。

(生活安全課長)

山口県では、自転車盗と万引きの被害が増加している。昨年5月にコロナウイルスの感染症法上の位置付けが変更されて以降、日常の生活を取り戻して行動が活発になったことも要因の一つと考えている。

(委員)

子供たちの人権作文を読むと、ネット上での誹謗中傷に関する意見が多くなっている。今年は、オリンピックでの審判の判定や選手の行為についてネット上で中傷する行為が問題になった。報道等によると、投稿者の多くは40代・50代の大人ではないかと報じられている。本日のテーマは子供たちを主眼としているが、心無い大人たちの言葉に子供たちは怒っている。

(委員)

子供の気持ちは、正確には読み取れない。学校と連携し、子供たちに被害の実態を伝えるとともに、子供たち自らが寸劇をすることで被害防止を考えられるような活動がよいのではないか。

また、子供たちがいつでも相談できるように、ヤングテレホン・やまぐちの電話番号を周知してほしい。

(生活安全課長)

電話番号の周知に関しては、教育委員会と相談しながら対応していきたいと思う。

警察の主導ではないが、この週末に、秋穂中学校がうそ電話詐欺と闇バイトに関する寸劇を文化祭の中でやると聞いているので、今後の参考にしたいと考えている。

(委員)

学生自ら寸劇をする取組は良いことだと思う。

いじめの問題について、今の子供たちは、昔のように殴り合うようなけんかはほとんどせず、スマホに関するトラブルが増え、学校での対応が難しくなっていると聞く。今の中学生・小学生はネット環境が整っているほか、教育委員会から配付された端末を持って帰って自由に使用できるので、家庭でしっかりと指導しなければいけない。

(委員)

子供の被害については、登下校時に親御さんが付き添っているので問題ないと感じている。また、不審者が出たとの話も聞かないので安心している。しかし、今は予測のつかないことが起こるので、親御さんには「気を付けてください。」と話をしている。

子供が加害者になることについて、光の事件では、14歳、16歳、18歳の少年が、関東から事件を起こしに來たということに考えが追い付かない。その親御さんは異変に気付けなかったのかと残念に思う。

(委員)

昔は一家に一台しか電話がなく、変な人からの電話に気付けるなど、家庭で見守ることができた。今は一人ずつ携帯電話を持っているので、いつどこで誰と連絡を取っているのか分からない。家族でも、日頃からよく見ていなければ

気付けないと思う。

小さい頃から「情報モラル教室」などを繰り返し受け、親御さんと一緒に見守っていく活動を地道にやるしかないと思う。

(委員)

闇バイトの募集が巧妙で、ホワイト案件などいろいろと記載されているので、高校生が見てもほとんど見分けられないと聞く。警察のポスター等を見て気を付けようとするなど、最初は気付けなくても途中で思いとどまれるように取り組むのがよいと思う。

少年犯罪は再犯率が高く、どうしても繰り返しやってしまうと聞く。少年の家庭環境や交友関係が大きく影響するのではないか。その辺りの対策も工夫が必要ではないかと思う。

(委員)

子供たちの行動も変化してきている。小学生がゲームセンターのメダルを学校内で交換したり、売ったりして商売していた。また、小学生が下級生をいじめるとか、中学を卒業した子供が無免許運転をして捕まったなどの相談を受けたこともある。

(委員)

「おはようございます。」と挨拶しても、返事をする子としない子がいる。恥ずかしくて言えない子もいるとは思いますが、家庭環境によるのかなと思うことがある。

(委員)

家族の出来事として、不審な人物を見かけてすぐ警察へ通報したところ捕まったという話を聞いた。やはり早期に対応するのが、被害者も加害者も生まないことにつながるのではないかと思う。後回しにしてしまうと、そこから更に犯罪が広がっていくと感じる。

上から下へ教えるだけでなく、子供たちが考えて行動すると定着できてよいのではないか。子供たち同士で何が危険かを話し合い、自主的に動ける環境が大事である。

また、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ教室」を積極的に開催してほしい。薬物というのは非常に恐ろしいものである。子供たちを取り巻く環境は便利になってきて、何でもすぐに手に入ることが怖い。

格差社会と言われる中で、子供たちが犠牲になってはいけない。警察だけでなく、教育的な面でも注意して見ていかなければならない。

(委員)

いろんな場面で犯罪被害の防止活動をされていることに驚いており、やはり今やっている活動しか方法はないのかなと思う。

闇バイトなどに対する意識の低さにも驚いた。どこでどのような教育を行えば解決できるのか、難しい問題である。発信されている情報が正しいのか間違いないのかが判断できないと思うので、情報発信の仕方や情報の見分け方を教えてあげられればよいと思う。

(委員)

様々な取組をしても犯罪がなくならないことに不安を感じる。

LINEなどで会話と同じように文章のやり取りをすると、感情の温度差により勘違いが生じトラブルになると思う。私は、「大事なことは家族に会って話しましょう。」と伝えている。家庭で話をする時間をたくさん作ることができれば、変化に気付くことができるかもしれない。

(委員)

必ずしも子供たちだけの問題ではない。社会全体が敏感になり、少しでも早い段階で解決していくことが大事である。

(2) 阿知須交番の開所に向けた取組

ア 概要説明

地域課長が以下の項目に沿って説明した。

- 阿知須交番の沿革
- 建替え作業
- 交番の構造
- 勤務体制、活動内容
- 交番の取組
 - ・ 地域安全活動
 - ・ 事件・事故の抑止活動
 - ・ 犯罪検挙活動

イ 協議

(委員)

できあがるのを楽しみにしている。開かれた交番として、住民が安心して喜ばれる交番であってほしい。

(委員)

勤務体制は変わるのか。阿知須交番はどのくらいの範囲を担当するのか。

(地域課長)

体制に変化はない。基本的には阿知須地区を管轄するが、パトカーで秋穂や佐山、嘉川地区なども広範囲に対応する。

(委員)

駐在所に電話してもつながらないのは、人が少ないからなのか。

(地域課長)

以前は駐在所や交番にも加入電話があり、直接やり取りすることもできたが、現在は廃止されている。警察署に連絡してもらえば、駐在所や交番の勤務員を向かわせることができる。

(委員)

交番は警察署よりも近い存在として、相談事等で立ち寄りやすい。常時、勤務員はいるのか。

(地域課長)

日中は交番相談員がいる。不在でも、連絡があれば勤務員を立ち寄らせて対応する。

(委員)

子供たちの様子を共有するため、学校の運用管理に警察も加わることはできないのか。犯罪防止の活動もスムーズに行くのではないかと思う。阿知須は3校が教育ネットでつながっている。その中に警察官も加わり、会合等で教養してもらおうのはどうか。

(地域課長)

必要に応じて会合に出席することは可能である。交番勤務員に限らず、テーマに応じて警察署の担当課で対応することもできる。早期の対応が大事であり、情報交換の場は貴重だと考える。

(委員)

駐在所が不在になる時間帯が分かればよいと思う。

(地域課長)

駐在所員はパトロールや実態把握のために地域を巡回しているので、不在にすることも多い。時間帯の断定はできないので、先ほど説明したとおり、連絡を受けて駐在所へ戻らせるか、付近の勤務員を派遣することとなる。

(委員)

家族関係などを聞いて回るような活動をしているのか。頻度はどれくらいか。

(地域課長)

管内の実態把握として、巡回連絡で家庭を訪問している。直接記入してもらうか警察官の代書により書類を作成し、簿冊に保管している。全ての家庭を訪問することはできないが、アパートやマンション等、異動の多い世帯を中心に訪問活動を行っている。

(委員)

山口南警察署には、交番はいくつあるのか。配置に決まりがあるのか。

(地域課長)

交番は、新山口駅前交番と阿知須交番の2か所である。世帯数や事件・事故の発生状況、地理的な状況等から、交番や駐在所が統廃合され、配置が見直されることもある。

(委員)

地域の方々にもよく利用してもらうなど、新しい交番の活躍を期待している。

5 配付資料

令和6年度第2回警察署協議会資料（警察署作成）

6 その他

令和6年度第3回警察署協議会の日程は、別途調整することとした。